

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3171500279		
法人名	社会福祉法人いずみの苑		
事業所名	グループホームいずみの苑		
所在地	鳥取県米子市淀江町淀江1075番地		
自己評価作成日	2024/01/06	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/31/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosvoCd=3171500279-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 保健情報サービス		
所在地	鳥取県米子市米原2丁目7番7号		
訪問調査日	令和6年1月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・食事は手作りを基本とし、地域のスーパーに買物に出掛け個々の残存機能を生かし職員と一緒に家庭料理を作っている。・自分のペースで生活できるよう、個々を尊重し出来る事をして頂き家庭的な環境の下で暮らして頂けるよう支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

本ホームは、同一法人の特別養護老人ホームや有料老人ホーム、地域包括支援センターやケアハウスなどの施設がある地域の一角にあり、自宅と変わらないような時間が流れています。
ホーム内に畑があり、採れた野菜が食事のテーブルにのり、必要な買い物近所のスーパーに職員と共に行かれ日常的に外出支援が行われています。
夏には花火にスイカ割、流しソーメン、秋には干し柿作り等、利用者様が持っている心身の機能を活かし日々を楽しんで過ごせるようケアに取り組まれています。
管理者、職員は、現状のケアの質や個々のケアの力量を更に向上できるよう取組まれています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・「ホームの理念」「職員の3つの心得」を目の付くところに掲示し、日々のミーティングや勉強会で理念を共有しケアに繋げている。	ホームの玄関や食堂などに理念が掲示されており、機会に触れ確認・共有し実践につなげておられます。	現場でケアの取り組みで困ったことが生じた時「理念」に立ち戻って「目指すもの」を再確認・再発見できることに期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・コロナ禍の中、感染防止に努めながら公民館活動、(花いっぱい運動、文化祭)に参加したり、行事で作ったおやつ等を地域住民、公民館などに出掛けおすそ分けしている。GH便りを年4回作成し地域に配布している。	コロナ感染予防を行いながら、地域の公民館活動や行事に積極的に参加しておられます。ホーム行事で作ったおやつなどを地域の方におすそ分けしたりして交流が図られています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	感染防止に努め実習生を受け入れ認知症の人の暮らしぶりや、支援方法等を知ってもらう機会としている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を開催し、利用者の現状報告や事業所の取り組み(行事、消防訓練、困難事例)等報告し、運営推進会議のメンバーの方から意見、助言を頂き内容を議事録に記録し、チームメンバーも目を通してサービスの向上に活かしている。	運営推進会議は定期的に行われています。報告が主となり、研修や勉強会も開催されています。参加者は自法人代表や民生委員、包括、駐在所など多方面にわたります。会議で離し合われた意見は日々のケアに活かされています。	報告に留まらず、一緒に行事活動を行うなど、GHの現状を見て頂き貴重な意見が抽出できる機会を持たれても良いと思います。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	・折にふれ十分とは言えないが連携している。同敷地内に地域包括支援センターがあり必要時、事例の相談をしている。・市からは制度に関する情報や感染情報、災害などの情報がある。	地域包括の通じて事例相談等実施しておられます。行政とは制度上の取り組みや情報の伝達に留まっています。法人本部が市の担当部署と連携しておられ情報提供して頂けます。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・法人の苑内研修、それに伴い勉強会、チーム会において不適切なケアをしない取り組みを話し合い、日々のケアを振り返り注意しあえるチームを目指している。 ・身体拘束廃止委員会は、2ヶ月に1回の運営推進会議の際に報告している。	定期的に法人内で研修や勉強会の開催が行われ、GHからも職員が参加しておられます。身体拘束に該当するようなケアは行っておられません。声掛けの際もスピーチロックにならないよう職員間でも気を付けておられます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	・苑内研修において、虐待防止法などまなんでいる。 ・ミーティングや勉強会を通し利用者の尊厳のある暮らしをチームで取り組むよう話し合い防止に努めている。	法人内で合同勉強会や研修会が定期的に行われ、虐待の予防・防止に取り組んでおられます。GH内では、利用者の尊厳を尊重し、虐待の予防に努められています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・現在、成年後見制度を活用されている方はおられないが、知識については苑内研修で学び理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・契約時、重要事項の説明の際に解約についても説明し、同意を得ている。 ・不安や疑問があればその都度対応している。 ・家族が来苑の際には「何か伺っておくことはないか」等の声かけをし、十分な説明と納得頂けるよう相手の立場に立って説明し確認している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・意見箱を設置し毎月1回確認している。・年1回満足度アンケート調査を行い、その結果を職員で話し合い日々のケアに反映させるようにしている。・毎月のお便りや電話連絡、面会時等に生活状況を報告し家族からも意見や要望を言いやすい雰囲気づくりに努めている。	毎年家族アンケート実施結果については職員で話し合い、意見についてはケアにつなげておられます。面談時に家族から意向・要望を頂かれています。コミュニケーションがとりやすく、信頼関係が成り立っていると感じました。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・管理者は日々の現場におり、ミーティングや勉強会にも参加している。 ・必要に応じて個人面談等を行っている。	職員の要望・意見はチーム会にて表出され、管理者は必要に応じて法人全体の会議へ伝えておられます。管理者は職員の個人面談を実施し適宜意見を聞くようにしておられ、ホーム運営へ反映できるよう取り組まれています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・希望休や有休は希望に応じて確保できるようにしている。 ・月1回個人個人で自ら評価を行い管理者に提出している。	職員個々が作っている年間計画を毎月評価し、管理者が確認、必要に応じて面談を実施されています。有給や希望休等意向に沿えるよう配慮しておられます。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・毎月行われる苑内研修に参加できるよう日程調整をしている。 ・苑外研修は、オンライン研修に参加したり、現場の状況に応じてテーマを挙げて勉強会を開催している。 ・グループホームに異動時はプリセプター制度(OJT)で育成に努めている。	毎月10日法人内で研修・勉強会・委員会等に全員参加しておられます。個人的に参加したい研修へはシフトの配慮が行われています。ホームへ異動職員にはプリセプターを付けOJTで指導して行われています。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・5類に移行になったが交流は控えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・相談を受けできる限り御家族を介し情報の把握に努めている。また、本人の安心を確保する為、サービス提供事務所からの情報を早めに頂くよう努め本人を理解するよう努めている。 ・勉強会、チーム会でご利用者の情報を共有し関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・相談から利用に至るまで出来る限り時間をとり、要望等を聞く機会をつくり、利用後どのような支援が出来るか等話し合いをして関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・相談時、ご本人、御家族の思いを確認し必要としている支援を見極め対応するよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・昔の風習、季節ごとの行事や食事、花の手入れ、畑の世話などを利用者と共にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・5類に移行になり面会は緩和されているが、ハイリスク施設の為感染防止は継続し面会している。 ・随時、電話連絡や月1回日々の暮らしを写真にし、お便りを発行し情報の共有に努めている。 ・本人の状況に応じ、随時電話連絡やハガキで連絡を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・コロナが落ち着いてきて、家族・知人等の面会は感染予防をして行っている。外出時は馴染みの場所などに支援し関係が保てるよう心掛けている。 ・墓参りの希望があれば御家族と連携して出掛ける場面をつくっている。	同一敷地内の特養などに友人や顔馴染みに会いに行ったり、墓参りや自宅へ帰宅して着替えを取りに行くなど、個々の意向に沿えるよう支援が行われています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・職員は利用者同士の人間関係を把握し座席の配慮や、活動する時の気の合う人同士支えあうよう配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・契約が終了しても同法人内の場合、利用者と共に感染防止に努め交流している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・日々の関わりの中で本人の表情、言動に耳を傾け一人ひとりの思いの把握に努めている。	直接ご本人様に問いかけ、意向を確認しておられます。帰ってくる返事が変化しても、表情や言動、各場面などで観察しヒント総合的に検討し、意向に沿える様に取り組みされています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・ご本人、御家族から聞き取りし生活歴などの把握に努めている。 ・入居前のサービス利用の状況の把握にも努めている。その際プライバシーに配慮している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・ご利用者一人ひとりの生活リズムを理解し言動、行動、表情や心理面等の視点で把握に努めている。 ・ご本人ができる事、できない事を見極めてできる事を中心にチームで支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・ご本人、御家族の思いを聞き職員全員で話し、介護計画に活かしている。	担当制を利用し、担当者は意向や希望、アセスメント含めケアプランの素案作成されます。計画作成者は各職種の意見をまとめ原案作成し、家族やご本人様に説明しておられます。モニタリング及びプラン変更については計画作成担当者が作成しておられます。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・個々のファイルに日々の様子を記録し、申し送り、ミニカンファレンス、カンファレンスで情報を共有しながらケアに活かしている。	日々の様子が記録された個人ファイルをもとに、必要事項や気になる事柄について、適宜・定期的なカンファレンス開催し、職員間で情報共有を行い、プラン変更の必要性やケアに活かしておられます。	記録に時間を取られる、利用者に関わる時間がもっと増えたら、楽しい時間が多く過ごせると感じます。ICTを導入検討して頂き、情報共有・現場の効率化に期待します。
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・ご利用者、御家族のニーズに応じて様々なサービスを提供出来るよう検討している。		

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・コロナ禍の為、地域資源の利用は以前にも増し縮小せざるを得ない状況だが、公民館、移動図書などの連携をとり地域との関わりを図っている。	
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・ご本人、御家族が協力医を希望されている方は往診に来てもらっている。 ・通院の場合、ご利用者、御家族が希望される医療機関を受診、歯科も依頼すれば往診に来てもらっている。 ・通院時にはご利用者の状況を御家族に伝え、受診結果についても家族から聞き協力医に報告し情報共有に努めている。	利用者・家族等が希望するかかりつけ医の受診の継続・、医療連携支援が行なわれています。協力医をかかりつけ医とされる方は定期的な往診が行われています。依頼すれば歯科の往診も行われています。家族の付き添いで受診が厳しくなった時は在宅医への紹介や連携も適切に支援されています。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・常にご利用者の健康管理や状態変化に応じ、併設の特養医務室看護師と連携をとり支援している。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・入院時には医療機関に本人の情報を提供し、御家族とも随時情報を交換し状態に応じた対応をしている。	入院時は、医療機関と早期から情報共有・連携が行われています。治療状況を見ながら、3か月程度まで待つなどの配慮がなされています。退院時にも医療機関より退院後の注意事項等の説明も行われています。
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・入居時に終末期の在り方について意向確認している。 ・終末期になった場合に再度意向を確認しながら、支援方法をチームで話し合い支援している。	地容赦・家族等に重度化・終末期にむけた方針を説明し同意を得ておられます。昨年秋にホームにて看取りを実施しておられます。急な展開であったが、職員が一丸となりケアに臨まれていた事が聞き取れました。利用者も不穏になることなく、職員と一緒に励ましたり、声掛けたりする等の取り組みもなされました。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・年1回全職員、消防署の協力を得て緊急時の対応、実施の研修を行っている。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・毎月9日に防災器具の設置場所、点検、備蓄品の確認を行っている。 ・訓練は年2回消防署、火災報知器の業者の協力のもと法人内合同で行っている。 ・地域との協力体制は運営推進会議で議題として挙げ情報提供や協力体制が取れるよう話し合っている。	避難訓練も昼夜と時間帯を変えて取り組まれています。法人も福祉避難所として行政と協議できるよう準備・工事が行われています。災害用の備蓄はホームに備えられています。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・勉強会などで職員の意識向上を図っている。 ・契約時、ご本人、御家族に広報誌GH便りに写真や名前を載せるか否か等確認をしている。 	定期的な勉強会や研修会は実施・参加されています。利用者に不快な声掛けや尊厳、誇りを損ねるような声掛けの無いケアに取り組んでおられます。訪問時もプライバシーを損ねるようなケアの場面は見受けられませんでした。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活の中で、一人ひとりのご利用者が自分で決められるよう場面づくりし支援に努めている。 		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・ご本人一人ひとりのペースを大切に、本人の思いに配慮しながら支援を行っている。 		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・行事やイベント時、お出掛けの際には化粧やおしゃれをして生活のメリハリ、楽しさを感じてもらえるよう支援している。 ・髪型については本人の意向を尊重している。 		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	<ul style="list-style-type: none"> ・基本メニューは利用者と相談しながら決めるようにしている。 ・調理や盛り付け、片付けは出来るご利用者と職員と一緒にしている。 ・畑で出来た野菜を使い料理をし楽しみとなっている。 	食事は毎食手作りで、メニューは利用者と一緒に相談して決定されています。食材も、利用者がホームの畑で作った野菜や、一緒にスーパーで購入してきておられます。盛り付けや食器洗い、片付けなど個々のできる能力を引き出しながら、支援がなされています。食事も薄味で季節感のある食材が使われていました。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の食べ物や飲み物の好みの把握に努めている。 ・定期的(年3回)に管理栄養士に献立を見てもらい、助言をもらい勉強会で情報を共有している。 		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	<ul style="list-style-type: none"> ・一人ひとりの状況に応じた口腔ケアの支援を行っている。 ・勉強会や苑内研修で歯科衛生士(母体)による、口腔ケアの基本的理解を学び実践に活かしている。 	利用者の個々にあった口腔ケアが実施されており、定期的に口腔ケアの勉強会に参加しておられます。法人施設の歯科衛生士にも適宜、個別な相談が出来、清潔保持のケアに取り組まれています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<ul style="list-style-type: none"> ・基本はトイレでの排泄を促し、布パンツへの移行が出来るよう支援している。 ・利用者一人ひとりに合った排泄の支援を行っている。 	利用者の個々の力や状態に応じた排泄方法で支援が行われています。入所時はリハビリパンツであったが、布パンツに変更できた事例もありました。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・食事やおやつにバナナやさつま芋等を取り入れ排泄につなげるよう支援している。 ・日頃、散歩等の運動を促している。 ・便秘の方は起床時に冷水や冷たい牛乳を飲んで頂き自然排便につなげるよう支援している。 		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・希望があれば随時入浴して頂いている。 ・拒否がある場合は、人を変えたり時間をずらして工夫している。 ・入浴の楽しみとして入浴剤を入れたり、行事の時には菖蒲湯やゆず湯を楽しんで頂いている。 	週2回、午後からの入浴支援となっていますが、気が向かず入浴支援ができなくても、曜日変更にて、様子や体調を見ながら支援がなされています。季節間のある菖蒲湯やゆず湯など楽しめるよう配慮がなされています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・日中は本人のペースに合わせて生活して頂き、一日の流れの中で一人ひとり状況に応じ休息が取れるように支援している。 		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・職員は薬の内容について把握し確実に服薬できるよう支援している。又、症状の変化についても観察し記録している。 ・薬の増量等があれば介護ノートやホワイトボードにて共有し生活の様子等記録している。 	一包装された処方薬は、服薬支援時職員が2名で確認しながら実施されています。症状や用法・頓服など、注意事項や留意事項、服用タイミング等介護ノートやホームのホワイトボードに記入し情報共有が図られています。変化が見られる場合には、かかりつけ医と連携し、指示を仰いでおられます。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の食事作り、花の手入れ、生け花、草取り、畑で野菜作り、生き物の世話等、一人ひとりの得意な事、できる事をして過ごせるよう支援している。 		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・感染防止に努め、食材の買い物、散歩、地域への外出支援をしている。 	自宅への帰宅や墓参りなどの個々の外出支援をはじめ、地域スーパーへの買い物、畑の苗を購入するためにホームセンター、ドライブなど、日常的な外出支援が行われています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・おこずかい帳を作り、買いたい物など希望のある時は本人がお金を払ったり出来るよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・電話がかかってくる、かけたい時は希望に応じて対応している。 ・年賀状や差し入れのお礼など手紙を書きポストに職員と出しに行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・中庭や軒先に季節の花や干し柿等見えるように配置している。 ・テーブルに花を飾ったり、利用者で作った季節の飾り等配置している。	畑がある中庭が見え、適度な明かりと室温の居間と調理の匂いが残る食堂は、利用者の手作りの作品が飾られていました。季節感の感じられる掲示物が廊下などに飾られており、心地よく落ち着いた共有空間になっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・居室で過ごして頂いたり、中庭にベンチを置きお茶を飲んだり、話しをしたり出来るよう環境作りをしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・馴染みの物や、使い慣れた物を持ってきて頂くようにして、安心して生活出来るよう工夫している。	居室は、本人が使い慣れたものや家族の写真など持ち込んで頂いておられます。居室の掃除や片付け等はご本人様の能力に応じて職員により支援が行われています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・分かり易いように表示(トイレ・居室)している。		